



今月のテーマ

認知症高齢者の“徘徊”と福祉用具レンタル市場の現状

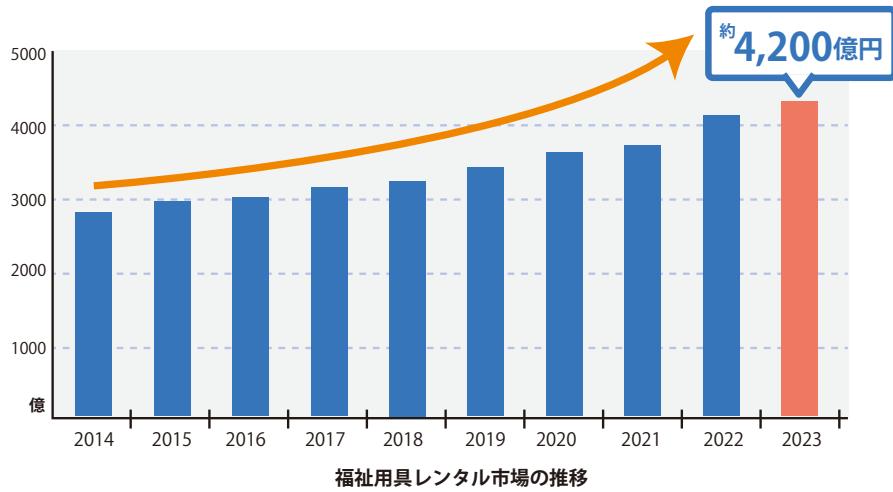
認知症高齢者の徘徊問題は深刻化の一途

高齢化の進展とともに、認知症高齢者による「徘徊」や「行方不明」問題は年々深刻になっています。警察庁の最新統計（2024年）によると、認知症またはその疑いによる行方不明者は18,121人に及びました。これは2015年から、およそ6,000人の増加となり、統計開始の2012年からではほぼ2倍に増加しています。徘徊は認知症の中核症状のひとつであり、見当識障害により、時間や場所の認識が困難となることが原因とされています。



福祉用具レンタルの役割と市場動向

認知症高齢者の安心と安全を支えるのが、福祉用具レンタルサービスです。2023年度の介護保険認定者は約707万人、そのうち256万人（37.1%）が福祉用具の利用しています。福祉用具レンタル市場は2023年度で約4,200億円と年々拡大しています。



福智用具レンタル
利用率の増加傾向



市場規模の拡大



家族と介護施設の安心を支える！福祉用具レンタル

福祉用具レンタルは初期費用の負担が軽く、レンタル機器の更新やサポートも充実しており、認知症老人徘徊対策機器は、家族の見守り負担軽減と安全確保に役立っています。

テクノスジャパン「家族コールシリーズ」

徘徊感知機器で多くご利用いただいているのが、家族コールシリーズです。2009年4月に「家族コール1」が発売され、昨年刷新された「家族コール4」が最新機種です。2025年までに弊社から出荷された家族コールは累計9万台を超え多くご利用いただいている。次回は徘徊感知機器「家族コール4」を特集いたします。

